

## ■ 中間考査に向けて



5月25日(火)～27日(木)まで1学期中間考査が実施されます。試験まで2週間を切っていますが、準備は順調に進んでいますか？

3年生で大学進学を考えている生徒の多くが指定校推薦を利用しています。その際、特に大事になってくるのが「評定平均値」ということになります。多くの大学が「1年から3年の1学期まで」の評定平均値を受験の際に求めてきます。少しでも自分の希望する学校に届くよう、努力してください。

1年生の諸君にとっては、高校入学後、初めての定期考査になりますが、普段の学習の成果を発揮できるようにがんばりましょう。2年生の諸君も、大学入試における指定校推薦の利用の有無などを問わず、しっかりと学習を重ね、どの程度自分の学力が身についているのかを確認する好機としましょう。

## ■ 進路指導室の利用状況について



4月以降、多くの3年生が進路指導室を利用しています。大学や専門学校のパンフレットだけでなく、卒業生の「受験報告書」をパソコンで閲覧することができます。就職希望者から、「求人票を見たい」と言われることがあります。昨年度の求人票はすべて処分しましたので、今年度分が開示される7月上旬までお待ちください。進路活動をしていて不明な点があれば、早めに進路指導室まで相談しに来てください。

ちなみに、例年になくこの4月は1、2年生の利用者も多かったです。早くから「自分の進路」に対しての意識を持つことは良いことだと思っています。

## ■ 3年生の進路希望状況



4月13日(火)～4月21日(水)に3年生の進路希望アンケートを実施しました。以下の表は、今年度の3年生145名分の回答をまとめたものになります(※( )内は女子の希望者数)。今年度も新型コロナウイルスの影響により、入学試験や入社試験がどのような形で実施されるのか不透明な部分がありますが、希望進路実現に向けて、着実に準備を進めていきましょう。

現時点でのあなたの進路希望は？	希望者数
4年制大学進学(東日本国際大学進学希望を含む)	90名(20名)
短期大学進学(いわき短期大学進学希望を含む)	4名(4名)
専門学校進学	21名(8名)
就職	27名(8名)
その他	3名(1名)

## ■卒業生の合格体験記

3月に卒業した昨年度卒業生の合格体験記です。今回は、茨城大学に進学した吉田悠乃助さんと岩手大学に進学した堀江翼さんの2名に書いていただいたものです。ぜひ、参考にしてください。

【合格体験記】 吉田悠乃助さん（昨年度3年5組）  
茨城大学人文社会科学部人間文化学科合格



私は茨城大学に合格しました。合格を知ったときは、努力が実を結んだと実感しました。高校生活を振り返ると、新型コロナウイルスや大雨（※2019年の台風19号）など色々なことがありました。しかし、国公立大学合格を目標に日々努力しました。模試や課外、補習などで毎日大変でしたが、確実に自分の力になっていると思います。

特に努力したことは、試験の傾向を知るために赤本を繰り返し解いたことと、自分の弱点を知ることです。傾向を知ることで、どんな対策をすればいいのか解（わか）り、試験に対する不安も軽くなるので赤本を何度も研究して下さい。そして、具体的な弱点を見つけて下さい。苦手教科のどの部分が苦手なのかハッキリさせることで、ただ苦手な教科を勉強し続けるという無駄が無くなり、身になる勉強が出来ます。

私は共通テストであまり良い点数が取れず、第1志望の大学を諦めました。しかし、共通テストが駄目だったときのプランを担任の先生と相談しておいたので、すぐに切り替えて二次試験対策に移ることが出来ました。皆さんも大学入試を受ける以上は、志望校の変更や不合格になることもあると思います。受験のプランを事前に考えておくことは重要です。

昌平高校は先生方が親身に対応してくれて、勉強が出来る環境も整った学校だと思います。最後は皆さんのやる気次第です。皆さんの進路実現のために何をすべきか、何を犠牲にしなければならないのかを考えながら毎日を大切に過ごして欲しいと思います。

【合格体験記】 堀江 翼さん（昨年度3年5組）  
岩手大学教育学部学校教育教員養成課程中学校教育コース  
新潟県立大学国際地域学部国際地域学科  
神奈川大学外国語学部英語英文学科合格

私が将来の目標を決めたのは、高2の2学期でした。それまでは、比較的できる理数系の大学に進もうと考え、自分の成績で入れる大学へ行こうくらいにしか思っていませんでした。  
(裏面に続く)

しかし、昌平留学プログラムで行ったオーストラリアなどの体験を経て英語の教師になりたいという夢ができました。理系の選択をしていた私にとって、文系の大学へ行きたいと思った時の大学選びは、科目選択によって受験できる大学が絞られてしまいました。ですから、文理選択はしっかり考えて選ばなければいけなかったと反省しました。



目標が決まってからの勉強は、共通テストまではひたすら苦手科目の底上げを図りました。私は古典が苦手だったので、何度も模試を解き直したり、先生からもらったプリントで学習したりしました。国公立大学の二次試験までは、自分の志望する大学の過去問10年分以上を何度も解きました。結果、志望した3大学全てに合格することができました。3年間努力してきたことが結果に結び付き、国立大学に合格できたということは自分にとって大きな自信となりました。

## ■ 日本学生支援機構・予約採用の申込みスケジュールについて

高校3年生の保護者の皆様には、すでにClassiでご連絡しておりますが、高校3年生の希望者に対して、5月11日（火）～13日（木）の3日間に分けて、日本学生支援機構・奨学金の予約採用に関する説明会を開き、資料を配付しました。校内申込み期間は下記の表にお示した3回となります。申込みを考えておられる場合には、必ず期間内に必要書類を提出し、そのうえで、学校側で設定した「スカラネット入力予定期間」内に入力を済ませるよう、ご家庭でもご指導ください。日程からすると、2回目の6月に申し込むのがよろしいかと存じます（※2回目の6月であれば、寮生も実家とのやり取りで十分に間に合うかと思われます）。



なお、3回目の申込み期間（※校内書類受付は7月14日（水）締切、学校でのスカラネット入力は7月20日（火）締切）が終了した後は、高校在学中の申込みはできなくなります。高校在学中に申し込んでおけば、貸与型、給付型を問わず、来年の5月頃に日本学生支援機構から支給される見込みです。大学、短大、専門学校等に進学した後でも申し込むことは可能ですが、予約採用よりも2か月ほど支給が遅くなり、7月頃になる見込みです。ご家庭でよく話し合ったうえで申し込んでください。付け加えまして、貸与型の場合、学校としてはあまり高額にならないように指導しております。金額については、ご家庭でよくご検討ください。進学先の学校を卒業してから半年後には返済が始まります。借りる金額については、無理のない程度であることをお勧めします。

### 【今後の「予約採用」に係る日程】

	申込書類の校内受付期間	スカラネット入力予定	結果通知時期
1回目	5月17日（月）～24日（月）	5月24日（月）～25日（火）	10月下旬
2回目	6月1日（火）～21日（月）	6月21日（月）～25日（金）	11月下旬
3回目	7月1日（木）～14日（水）	7月14日（水）～20日（火）	12月下旬

## ■ 柔道家・古賀稔彦さんを偲んで



1992年のバルセロナ五輪柔道男子71キログラム級で金メダルに輝いた古賀稔彦（こが・としひこ）さんが、3月24日、自宅において、53歳の若さで死去したという一報に触れて非常に驚きました。比較的最近まで、スポーツ番組等に出演していた印象があり、がんと闘病していたことは知りませんでした。謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

古賀さんと言えば、先に記したバルセロナ五輪の金メダリストというイメージが強いですが、このバルセロナ五輪直前のアクシデントについて触れた読売新聞の3月25日付のスポーツ欄に掲載されていた「評伝」の記事を全文引用して紹介します（〔 〕内）。当時、一般にはあまり知られていなかったと思われる吉田秀彦さん（バルセロナ五輪・柔道男子78キログラム級金メダリスト）との「友情」を物語る逸話で、心に残りました。

〔背負い投げは、技を仕掛けた側も一緒に畳に転がる場面が多い。だが、古賀稔彦の技は、相手をごぼう抜きにした後、自分の足元にドスンと仕留める豪快さがあった。立ち姿のまま敗者を見下ろす荒法師。奈落の底に落ちた相手は完敗を認めざるを得なかった。〕

試練は1992年のバルセロナ五輪だった。試合当日の11日前、柔道私塾・講道学舎の後輩で、同五輪78キログラム級金メダルの吉田秀彦と乱取りの最中、互いにもつれて左ひざの靭帯（じんたい）を痛める大けがを負う。尋常ではない悲鳴をあげる古賀に関係者は騒然となった。日本柔道には金メダルしか許されなかった時代。出場すら危ぶまれた古賀には、計り知れない重圧となった。

だが、国の名誉以上に負けられない事態が起きていた。吉田に対し「何でけがをさせた」と非難する声が上がリ、古賀の耳にも届いていた。口外することはあまりなかったが、親しい柔道家には後日、「吉田のために負けるわけにはいかなかった」と、友との絆を守り切った安堵（あんど）感を打ち明けている。無事、金メダルを獲得した古賀だが、様々なストレスから「帰国した時の胃は、潰瘍（かいよう）でぼろぼろだった」という講道学舎関係者の証言も残っている。

亡くなる前日の晩、吉田が自宅を見舞い、手を握りながら病床の古賀に言葉をかけていたようだ。古賀の背負い投げと吉田の内股（うちまた）は、来るとわかっていてもしのげない宝刀でもあった。最期の技自慢を交わしていたのかもしれない。〕

バルセロナ五輪直前の古賀さんの大けがについては、当時大きく報道されていました。練習相手をしていた吉田さんが悔やんでいた表情もよく覚えています。ただ、2人の関係については、（報道されていたのかもしれませんが）よく分かりませんでした。当時の報道内容から、どうしても吉田さんが古賀さんにけがをさせてしまったという印象になり、吉田さんに対する非難の声が大きくなってしまったようです。しかし、読売新聞の「評伝」にもあったように、2人は講道学舎の先輩、後輩の間柄であり、固い絆で結ばれていた仲でした。そういった背景がよく知らされないまま、吉田さんが非難の対象になってしまったことに対して、古賀さんは悔しい思いをしていたのだと思います。

柔道界だけでなく、各界から故人に対するお悔やみの声が聞かれましたが、選手としてだけでなく、指導者としても多くの教え子から慕（した）われていたのが印象的でした。筆者も残念でなりません。合掌

文責：清水聖（進路指導主事）